

メディア接触が子どもの認知能力、情報活用の実践力、攻撃性、向社会性に与える影響

近江 玲・坂元 章

1. 目的

パイロット調査のデータを用い、メディア接触量が子どもの認知能力、情報活用能力、攻撃性、向社会性にどのような影響を与えているかを検討する。

2. 方法

被調査者は、川崎市にある小学校7校の小学1年生と小学4年生、中学校4校の中学1年生であった（すべて平成15年時点）。平成15年時点で小学1年生だったグループをコーホート1、小学4年生だったグループをコーホート2、中学1年生だったグループをコーホート3とする。調査は、平成15年から平成17年にかけて3回実施され、各時点において、すべてのコーホートの被調査者のメディア接触量（テレビ、ビデオ、テレビゲーム）が、保護者による観察日誌によって測定された。また、コーホート1とコーホート2に対しては、認知能力（言語能力、空間処理能力、創造性、一般的な知識〔コーホート2のみ〕）をテストによって測定し、コーホート2とコーホート3に対しては、自己記入式質問紙によって、情報活用の実践力、攻撃性、向社会性を測定した。

3. 結果

1時点目のメディア接触量が2時点目の各変数に与える影響、2時点目のメディア接触量が3時点目の各変数に与える影響、そして1時点目のメディア接触量が3時点目の各変数に与える影響を、重回帰分析によって検討した。

コーホート1については、1時点目のテレビ接触量が2時点目の空間処理能力を低めている効果や、2時点目のビデオ接触量が3時点目の言語能力を高める効果、1時点目のテレビ接触量が3時点目の言語能力を高める効果などが検出された。

コーホート2については、1時点目のテレビ接触量が2時点目の言語を低める効果、1時点目のビデオ接触量が2時点目の空間処理能力を低める効果、1時点目のビデオ接触量と2時点目のテレビゲーム接触量がそれぞれ、3時点目の一般的知識の成績を低める効果などが検出された。また、1時点目のテレビ接触が2時点目の身体的攻撃を低める効果や、1時点目のテレビ接触量が3時点目の向社会性を低める効果、1時点目のテレビゲーム接触量と2時点目のテレビゲーム接触量がともに、3時点目の情報活用の実践力を低める効果などが検出された。

コーホート3については、2時点目のテレビゲーム接触量が3時点目の向社会性を低める効果など、わずかな効果しか検出されなかった。